

2014年度企画展

立山登山

—山岳の魅力とリスクを考える—



2014. 7.19 sat — 9.28 sun

山と川と人のミュージアム



富山県 立山カルデラ砂防博物館

TATEYAMA CALDERA SABO MUSEUM

主催/富山県 立山カルデラ砂防博物館

後援/独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立登山研修所 公益社団法人 日本山岳ガイド協会 立山山荘協同組合 立山ガイド協会



立山登山

— 山岳の魅力とリスクを考える —

立山登山で触れることができる自然の魅力や、そこに潜むリスクを詳しく紹介します。

立山登山—自然の魅力

上昇する山

立山を含む北アルプスは第四紀の隆起量が日本有数で、現在でも隆起を続けています。黒部川流域では世界一若い80万年前の花崗岩が発見されています。



氷の山

立山は世界的な豪雪地帯で一冬の積雪量は最大で20mにも達します。このため万年雪が日本一多く分布し、その中に日本で唯一の現存する氷河が発見されました。



火の山

かつて立山カルデラに存在した立山火山の大噴火により、広大な弥陀ヶ原台地が形成されました。地獄谷や立山カルデラは今でも火山活動が盛んな活火山です。



水の山

立山の年降水量は6000mmに達しその半分は雪でもたらされます。これらの豊富な水が称名滝に見られるような独特のV字峡谷を作り上げました。



生命の山

多様な立山の大地には、標高により様々な動植物が生息しています。氷河を持つ高山地帯には、氷期の生き残りといわれる雷鳥や高山植物が多く分布します。



立山登山—潜むリスク

厳しい気象—低体温症

立山連峰の稜線では、真夏でも0℃近い低温や20m/sを超える強風が吹き荒れる厳しい気象条件下におかれることがあります。低温、強風に濡れが加わると、真夏でも短時間で低体温症に陥る危険があります。



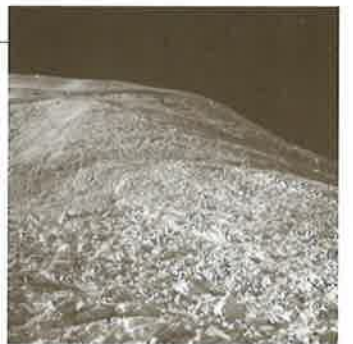
豪雨—土石流

近年、時間雨量が80mmを超える豪雨の頻度が増しているといわれています。山岳地帯では、時間雨量が30mmを超えると土石流に対する注意が必要です。昭和44年8月の集中豪雨では立山の各所で土石流が発生し、称名川の様相は1日で大きく変わってしまいました。



豪雪—雪崩

立山では初冬や春先でも多量の新雪が降り積もることがあり、近年、表層雪崩による遭難事故が4件も発生しました。積雪中に弱層が形成されていると大規模な雪崩となることがあり十分な注意が必要です。



体験しよう!

ピンポン球雪崩実験

雪崩は恐ろしい現象ですが、その速度や衝撃力をピンポン球1万個を流す模擬実験で体験することができます。実験は、展示期間中毎日行います。



クライミング

立山剣岳の稜線では、険しい岩場が出現します。剣岳の難所「カニのヨコバイ」を模したクライミングウォールに挑戦しましょう。



サイエンスショー

8月2日(土)、3日(日)

講師を招いて、雪崩、土砂の流れ方、雲や雪のでき方等をわかりやすい実験で体験することができます。講師/納口恭明、平松和彦、神田健三、目代康邦



山と川と人のミュージアム

富山県 立山カルデラ砂防博物館

TATEYAMA CALDERA SABO MUSEUM

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦崎寺字ブナ坂68
TEL(076)481-1160 FAX(076)482-9100
ホームページ <http://www.tatecal.or.jp/>

■開館時間/9:30~17:00 (入館は16:30まで)

7月25日~8月31日 8:30開館

9月13~15日、20~23日 9:00開館

■休館日/7月22日、9月1日、8日、16日、24日

■企画展観覧料/無料

■常設展観覧料/大人400円、大学生320円、高校生以下無料

■交通/富山地方鉄道(立山駅)から徒歩1分
北陸自動車道(立山IC)から車で約40分